



平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス
コード番号 9861 URL <http://www.yoshinova-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

TEL 03-4332-9701

四半期報告書提出予定日 平成26年10月9日 配当支払開始予定日 平成26年11月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第2四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第2四半期	88,961	2.5	1,787	153.2	2,002	57.2	982	336.8
26年2月期第2四半期	86,754	6.9	706	△52.1	1,274	△29.9	224	△28.7

(注)包括利益 27年2月期第2四半期 888百万円 (92.5%) 26年2月期第2四半期 461百万円 (35.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第2四半期	18.53	—
26年2月期第2四半期	4.38	—

(注)平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年2月期第2四半期	110,745		59,137		52.8	
26年2月期	95,524		43,412		44.8	

(参考)自己資本 27年2月期第2四半期 58,496百万円 26年2月期 42,749百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	1,000.00	—	10.00	—
27年2月期	—	10.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年2月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しておりますが、期末の配当金につきましては、株式分割後の数値で算定しております。

3. 平成27年 2月期の連結業績予想(平成26年 3月 1日～平成27年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	175,000	0.9	3,300	51.4	3,700	13.1	1,000	43.3	19.46

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年2月期2Q	63,940,500 株	26年2月期	66,240,500 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年2月期2Q	600,800 株	26年2月期	14,845,900 株
----------	-----------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年2月期2Q	53,019,590 株	26年2月期2Q	51,394,600 株
----------	--------------	----------	--------------

(注) 平成26年7月25日開催の取締役会決議に基づき、公募による自己株式の処分(10,900,000株)、第三者割当による自己株式の処分(1,045,100株)及び自己株式の消却(2,300,000株)を行っております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年8月31日)の連結業績は、連結売上高が889億61百万円(前年同期比2.5%増)、連結営業利益は17億87百万円(前年同期比153.2%増)、連結経常利益20億2百万円(前年同期比57.2%増)、連結四半期純利益9億82百万円(前年同期比336.8%増)となりました。

平成26年4月1日より施行された消費税の増税の影響は、各セグメントにおいて当第2四半期末まではほとんど見られず、すべてのセグメント別の売上高、セグメント利益で増収増益を達成いたしました。

当社グループは、成長テーマである「リ・イノベーション」を実現していくため、よりスピーディな意思決定が可能となるグループ経営体制への見直しを進めております。前期より開始したグループ間での人事交流の活性化、グループ商品本部による仕入れの共通化や、(株)吉野家インターナショナルによるグループ各社の海外事業展開の統括も開始いたします。また、指導・監督層や幹部候補層の人材にリーダー教育を実施していく「グループアカデミー」も本格稼働いたします。「リ・イノベーション」の実現のため、ダイバーシティ(人材構成の多様化)の推進も引き続き行ってまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

なお、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更し、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更しております。以下の前年同四半期との比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分、測定方法に基づき作成した数値で比較しております。セグメント区分の変更及び報告セグメントの測定方法の変更の詳細につきましては、P.13「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

[国内吉野家]

国内吉野家の同期間の連結売上高は、469億51百万円と、対前年同期比0.4%の増収となりました。

国内吉野家では、4月1日から商品価格の見直しを実施すると共に、牛丼の品質向上に取り組みました。圧倒的に「うまい」牛丼を目指し、牛丼の重要な3要素である「牛肉」「たれ」「玉ねぎ」の品質向上に取り組みました。「牛肉」は「熟成」というテーマのもと、加工工程を変更し肉のうまみの増加と食感の向上に取り組みました。「たれ」については、最適な素材や配合量を追求し、原料ひとつひとつを見直し、たれ全体のまろやかさ、香りをより高めました。「玉ねぎ」は煮込み段階での増量を行い、お客様からの「もう少し玉ねぎを増やして欲しい」というご要望にお応えすると共に、自然な甘さを増しております。また、7月30日からは夏向けコンロ商品として、牛肉とたっぷり野菜のバランスにこだわった「牛バラ野菜焼定食」を発売いたしました。セグメント利益は、食材原価の高止まりは前期から継続しているものの、増収により、15億82百万円と、対前年同期比78.5%の増益となりました。同期間の店舗数は、18店舗を出店し、13店舗を閉鎖した結果、1,196店舗となりました。

[海外吉野家]

海外吉野家の同期間の連結売上高は、67億96百万円と、対前年同期比14.3%の増収となりました。

増収の主な要因は、米国での既存店売上増および、アジアでの店舗数が増加したことによります。第2四半期末の海外吉野家全体の店舗数は前年同期と比べ14店舗増加いたしました。セグメント利益では、増収により、1億72百万円と、対前年同期比159.6%の増益となりました。同期間の店舗数は、23店舗を出店し、23店舗を閉鎖した結果、636店舗となりました。

[はなまる]

はなまるの同期間の連結売上高は、101億96百万円と、対前年同期比5.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、店舗数の増加によるもので、第2四半期末のはなまるの店舗数は、前年同期と比べ13店舗増加いたしました。5月にあらゆる立地に出店可能となる自慢のかけだしを活かした新業態「はなまる屋」をオープンしました。また、7月には粗くおろすことでシャキシャキとした食感が楽しめる鬼おろし(大根おろし)と、花かつおを盛り付けた暑い時期にふさわしい清涼感のあるメニュー「冷かけ」をはなまる流にアレンジした特製「冷かけうどん」を発売いたしました。セグメント利益は、増収により、7億円と、対前年同期比12.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、14店舗を出店し、5店舗を閉鎖した結果、365店舗となりました。

[どん]

どんの同期間の連結売上高は、117億78百万円と、対前年同期比6.2%の増収となりました。

増収の主な要因は、フォルクス及びステーキのどんの店舗改装効果等により、既存店売上高前年比が+5.9%となったことによります。また、全業態で店舗活性化策の実践に取組み、「ステーキのどん」では、4月から多くのお客様から復活を要望されておりました「どんステーキ」の進化版「どんステグリル」を発売しました。セグメント利益は、増収により、3億7百万円と、対前年同期比85.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、2店舗を出店し、1店舗を閉鎖した結果、176店舗となりました。

[京樽]

京樽の同期間の連結売上高は、122億67百万円と、対前年同期比3.8%の増収となりました。

増収の主な要因は、前期から推し進めている「原点回帰」のもと、商品やサービスの上質化や販売促進策が奏功し、既存店売上前年比が+1.4%となったこと等によります。セグメント利益は、増収により、1億99百万円と、対前年同期比486.0%の増益となりました。同期間の店舗数は、7店舗を出店し、9店舗を閉鎖した結果、326店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,107億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ152億20百万円の増加となりました。これは主として、現金及び預金が132億59百万円増加したことと、受取手形及び売掛金が9億37百万円増加したことによるものです。

負債は516億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億4百万円の減少となりました。これは主として、短期借入金が100億50百万円減少し、長期借入金が65億12百万円増加したことによるものです。

純資産は591億37百万円となり、前連結会計年度末に比べ157億25百万円の増加となりました。これは主として、自己株式が173億56百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の通期の業績予想につきましては、平成26年4月11日の決算短信発表時に公表いたしました数値から修正はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,174	31,434
受取手形及び売掛金	3,412	4,349
商品及び製品	2,826	2,514
仕掛品	55	19
原材料及び貯蔵品	2,868	3,375
その他	2,746	2,996
貸倒引当金	△3	△7
流動資産合計	30,079	44,682
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,803	25,432
その他(純額)	13,432	14,161
有形固定資産合計	38,236	39,594
無形固定資産		
のれん	1,471	1,370
その他	2,025	1,948
無形固定資産合計	3,497	3,318
投資その他の資産		
投資有価証券	1,087	1,164
差入保証金	15,142	15,179
繰延税金資産	929	754
その他	6,732	6,221
貸倒引当金	△181	△169
投資その他の資産合計	23,710	23,149
固定資産合計	65,444	66,063
資産合計	95,524	110,745

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,776	6,188
短期借入金	17,698	7,648
1年内返済予定の長期借入金	4,614	4,560
リース債務	606	745
未払法人税等	1,455	775
賞与引当金	1,359	1,355
役員賞与引当金	112	43
株主優待引当金	216	235
資産除去債務	8	25
その他	7,823	10,395
流動負債合計	38,673	31,974
固定負債		
社債	750	750
長期借入金	6,725	13,238
リース債務	1,096	1,483
退職給付引当金	626	638
資産除去債務	2,318	2,291
その他	1,921	1,230
固定負債合計	13,438	19,632
負債合計	52,112	51,607
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	40,776	39,225
自己株式	△18,089	△733
株主資本合計	44,091	59,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3	△1
為替換算調整勘定	△1,339	△1,400
その他の包括利益累計額合計	△1,342	△1,401
少数株主持分	663	641
純資産合計	43,412	59,137
負債純資産合計	95,524	110,745

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	86,754	88,961
売上原価	32,825	33,190
売上総利益	53,928	55,770
販売費及び一般管理費	53,222	53,982
営業利益	706	1,787
営業外収益		
受取利息	22	25
受取配当金	163	64
賃貸収入	192	181
持分法による投資利益	37	24
雑収入	548	353
営業外収益合計	965	649
営業外費用		
支払利息	185	160
賃貸費用	170	137
雑損失	40	136
営業外費用合計	396	434
経常利益	1,274	2,002
特別利益		
固定資産売却益	-	338
特別利益合計	-	338
特別損失		
減損損失	334	375
契約解約損	50	41
特別損失合計	385	416
税金等調整前四半期純利益	888	1,924
法人税、住民税及び事業税	562	818
法人税等調整額	153	146
法人税等合計	715	965
少数株主損益調整前四半期純利益	172	959
少数株主損失(△)	△52	△22
四半期純利益	224	982

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	172	959
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	2
為替換算調整勘定	290	△73
その他の包括利益合計	288	△71
四半期包括利益	461	888
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	467	923
少数株主に係る四半期包括利益	△5	△35

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	888	1,924
減価償却費	2,709	2,432
のれん償却額	128	130
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	△8
賞与引当金の増減額(△は減少)	△111	△3
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△57	△68
株主優待引当金の増減額(△は減少)	7	18
退職給付引当金の増減額(△は減少)	10	12
受取利息及び受取配当金	△185	△90
支払利息	185	160
持分法による投資損益(△は益)	△37	△24
固定資産売却損益(△は益)	-	△338
減損損失	334	375
売上債権の増減額(△は増加)	△1,107	△922
たな卸資産の増減額(△は増加)	△166	△126
仕入債務の増減額(△は減少)	1,807	1,424
その他	920	1,733
小計	5,304	6,630
利息及び配当金の受取額	177	82
利息の支払額	△173	△155
法人税等の支払額	△382	△1,498
法人税等の還付額	199	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,124	5,058

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△79	△7
定期預金の払戻による収入	95	123
有形固定資産の取得による支出	△2,574	△2,950
有形固定資産の売却による収入	20	245
無形固定資産の取得による支出	△36	△125
資産除去債務の履行による支出	△73	△15
差入保証金の差入による支出	△301	△257
差入保証金の回収による収入	568	220
貸付けによる支出	△25	△10
貸付金の回収による収入	58	96
関係会社株式の取得による支出	-	△50
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,347	△2,731
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△554	△367
短期借入金の純増減額 (△は減少)	5,160	△10,037
長期借入れによる収入	1,900	9,000
長期借入金の返済による支出	△2,664	△2,547
配当金の支払額	△511	△515
自己株式の売却による収入	-	15,357
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,329	10,890
現金及び現金同等物に係る換算差額	110	△59
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,217	13,157
現金及び現金同等物の期首残高	14,003	17,964
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	223
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,221	31,345

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年8月11日を払込期日とする公募による自己株式の処分（一般募集）を行い自己株式処分差益が7億33百万円発生したことにより、当第2四半期連結累計期間において同額資本剰余金が増加するとともに、自己株式が132億80百万円減少しております。

また、平成26年8月26日を払込期日とする第三者割当による自己株式の処分（オーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関連する第三者割当）を行い自己株式処分差益が70百万円発生したことにより、当第2四半期連結累計期間において同額資本剰余金が増加するとともに、自己株式が12億73百万円減少しております。

また、平成26年7月25日開催の取締役会決議に基づき、平成26年8月28日に自己株式2,300,000株の消却を行っており、資本剰余金が8億3百万円、利益剰余金が19億98百万円及び自己株式が28億2百万円それぞれ減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本剰余金が111億39百万円、利益剰余金が392億25百万円、自己株式が7億33百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	46,138	5,944	9,649	11,050	11,763	84,546	2,207	86,754	-	86,754
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	612	-	-	44	52	709	208	918	△918	-
計	46,751	5,944	9,649	11,094	11,816	85,256	2,416	87,672	△918	86,754
セグメント利益	886	66	623	165	33	1,776	9	1,786	△1,080	706

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額1,080百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,120百万円、セグメント間取引消去116百万円、及びのれんの償却額△75百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	46,568	6,796	10,168	11,773	12,228	87,535	1,426	88,961	-	88,961
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	382	-	27	5	39	456	256	712	△712	-
計	46,951	6,796	10,196	11,778	12,267	87,991	1,682	89,673	△712	88,961
セグメント利益	1,582	172	700	307	199	2,962	26	2,988	△1,200	1,787

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,200百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,250百万円、セグメント間取引消去125百万円、及びのれんの償却額△75百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の事業再編に伴い、従来「その他」に属しておりました株式会社千吉の事業を「はなまる」セグメントの区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

前第3四半期連結会計期間より、当社グループ内における取締役の兼務状況を見直したことに伴い、各事業セグメント間の比較可能性を高める目的で、(株)吉野家、(株)吉野家インターナショナル及びヨシノヤアメリカ・インクから当社へのロイヤリティの配分方法を、全社セグメントに配分する方法から国内吉野家及び海外吉野家セグメントへ配分する方法に見直し、当社の取締役会に提供する各事業セグメントの損益の測定方法を変更しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「国内吉野家」で494百万円、「海外吉野家」で247百万円増加しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント利益においても、変更後の測定方法に基づき作成したものを開示しております。